

## 序

都立衛生研究所の歴史は50年余になります。戦後厚生省から地方衛生研究所設置要綱が出され、それに基づいて都内の6つの試験検査機関が統合されたことに始まります。その6つの機関の歴史を踏まえると、発足は明治32年までに遡り、既に百年になります。

この間の歴史を物語る東京市衛生検査所の学術業務報告が残されており、このたび、その業績目録を整理することが出来ました。その中では、当時の少ない人数で新しい東京の衛生状況を把握改善しようと試験検査と調査研究に取り組む状況が垣間見られ、また、その成果を学術報告としてまとめ、広報に努めようとした所長の意欲が強く感じられます。

そして、東京市衛生検査所はその後の東京市の発展とともに、試験検査の拡充、職員体制の充実を行い、伝染病、栄養、医薬品製剤、河川水、水道水、紫外線、さらには人体影響の把握にまで取り扱う範囲が広がり、まさに東京市の公衆衛生行政の科学的基盤を担う検査研究機関となっていったわけです。

これらの成果は、現在の私たちにとって大きなバックボーンであり、誇りとするものです。この歴史に恥じないように私達は努力をしていかなければいけません。

その一つとして、これからの年報の発行に当たっては、これまでの年報の考え方を見直し、改善を図りました。今までは実績報告というイメージでしたが、これからはその範囲にとどまらず、実績をふまえた総説を取り入れ、当所の研究成果をよりPR出来るものとなりました。これまで報文と称していたものは論文とし、論文は考察を充実するようにしました。これらによって投稿論文は、総説、論文、資料と分けることとなります。

今回の総説のテーマとしてはノーワークウイルス感染症と化学物質による室内空気汚染を取り上げています。ともに最近注目されている分野の事項ですが、年報に総説を盛り込んだのは、職員が自分の専門分野について総説を書けるようになることを目標としているからでもあります。

今後も衛生研究所の行政試験検査機関として役割を果たすために、試験検査と調査研究を如何に発展させるか、その一つ一つの課題に取り組んでいきたいと思えます。今年度の年報の発行に当たり、皆様の忌憚のないご意見ご指導を宜しくお願い申し上げます。

平成15年2月

東京都立衛生研究所長 上 木 隆 人